

第2回 甲府市上下水道事業推進会議 会議録

- 会議の名称：第2回 甲府市上下水道事業推進会議
- 開催日時：令和6年9月19日（木）午後3時00分～午後4時30分
- 開催場所：甲府市上下水道局 3階大会議室
- 出席委員：石平博委員、落合圭子委員、太郎良留美委員、野村千佳子委員
河西孝美委員、雨宮登美子委員
- 欠席委員：0名
- 傍聴者数：1名
- 次第
 - 1 開会
 - 2 報告事項
 - 3 議 事
 - (1) 「甲府市上下水道事業経営戦略改定版（骨子案）」について
 - (2) その他
 - 4 事務連絡
 - 5 閉 会
- 審議内容

（会長）

それでは、次第の3「議事」になります。

(1) 「甲府市上下水道事業経営戦略改定版（骨子案）」について、事務局より説明をお願いします。

《事務局説明》

（会長）

それでは、(1)「甲府市上下水道事業経営戦略改定版（骨子案）」について、委員の皆さまのご意見やご質問等をお伺いしたいと思います。

まず、最初に、経営戦略の関係図の資料での説明で、根底的な上下水道事業の

役割は変わらないので、経営理念や施策の方向性は、現行の戦略を踏襲していくとのお話でした。

また、現行の経営戦略の策定から7年が経過する中で、上下水道を取り巻く事業環境の変化や、新たな潮流、国・県・市の関連計画との関係性を踏まえたものということでしたが、資料2の「計画関係図」に関してご意見やご質問等はございますか。

(委員)

なし

(会長)

続きまして資料3「骨子案」第1章 総論に関しまして、基本的には現行の経営戦略を踏襲していくとのことでしたが、ご意見やご質問等はございますか。

(委員)

今までの経営計画2008、それから経営戦略2018の総括といたしますか、進捗状況や課題で、どこができたかというところは、総論の1のところに入ってくるということでしょうか。

(事務局)

基本的には、総論に策定の経過と趣旨が入りまして、第2章、3章の2現状と課題のところ、これまでの総括を踏まえた課題を整理して記述する形になっております。

(会長)

続きまして第2章水道事業経営戦略（水道事業ビジョン）に関しまして、概要や現状と課題から、何かございましたら、ご意見、ご質問等をお願いします。

(委員)

新たな社会的要請というところで、いろいろ記載されているのですが、例えば現状と課題の11番のDXとAIって書いてあるのですが、DXの項目はあるの

ですけど、A I の項目も入れられるのでしょうか。

13 番の S D G s なのですけれども、環境以外の項目もあるのかをお伺いしたいと思います。

(事務局)

現状と課題の 11 番について水道 D X を国でキーワードとしているのですが、D X 中には A I 等も踏まえておりますので、その点は検討していきたいと思えます。それから 13 番の環境保全の取り組みということで、環境以外の項目については、今回は環境を中心に項目立てを考えています。

(会長)

続きまして、資料 5 ページ。第 3 下水道事業に関しまして、概要や現状と課題、施策などから、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

構造としては上水道と同じですけれども、少し違うところもありますので、お気づきの点があればご指摘いただければと思います。

(会長)

細かいところですが、経営方針で、上水道と異なり下水道の場合は経営方針 1 が安全と強靱がセットになっていますが、この点はなにかありますか。

(事務局)

経営方針につきましては、国で策定している水道ビジョン、下水道ビジョンの施策体系を参考に設定しております。

(会長)

続きまして資料の最終ページになります。第 4 章フォローアップは現行の推進体制を踏襲しつつ、進捗管理においては、3 年から 5 年でのローリングによる改善サイクルを採用するというお話でした。4 章に関しましてご意見やご質問等ございますか。いかがでしょう。

この 3 から 5 年のローリングサイクルは、先ほどもご説明ありましたが、総務省の方針に従ってということでしたが、大体このぐらいのサイクルが適切なので

しょうか。

(事務局)

10年計画なのですが、10年のうちには、社会情勢も変化したりする場合もあり、より経営戦略の質を高める意味から、3年から5年のサイクルで改定することが推奨されています。

(会長)

先ほど説明のあった改善サイクルですけれども、内容としてはそんなに変わらないと思いますが、どこから始めるという点はどうですか。

(事務局)

これまでPDCAサイクルを採用していたのですが、成績をつけることに重点が置かれてしまう傾向もあり、今回は、進捗管理による改善に重点を置いた上で事業を遂行していく、より前向きな形のマネジメントサイクルの考え方を採用しました。

国土交通省等でも新たにこういう考え方を取り入れておりますので、参考にさせていただきます。

(会長)

これまでの説明を踏まえまして、全体を通して何かございましたらお願いします。

(事務局)

分りづらい専門用語などがありましたら質問してください。管路DB、ウォーターPPPなど、どのような方向で考えているのか等でも構いません。

(会長)

ありがとうございます。重要な点だと思いますので、まず初めに今の点についてお願いします。

(事務局)

管路DBについて説明します。DBの頭文字はデザインビルドになりますが、現在、管路工事は、職員が設計をして、民間事業者に工事を発注しています。この設計と施工を一括して民間事業者に発注することで、工事の効率化を図っていく官民連携の手法のことを指します。

(会長)

ありがとうございます。では続きまして、PPPにつきましてお願いします。

(事務局)

官民連携としては、業務委託、包括的業務委託などを行っていますが、ウォーターPPPにつきましては、委託の範囲をさらに進め、工事や維持管理を含めて民間に委託していく新たな官民連携の方式となります。

(会長)

他いかがでしょうか。ちょっとこの言葉わかりにくいな、というのものもあるかもしれません。もしあれば、よい機会ですのでよろしいですか。

(委員)

4 ページの経営方針(4)のメーター口径20ミリの普及促進対策、現状は何ミリで20ミリになればどういう利点があるのか教えていただきたいです。

(事務局)

メーターの口径は、一般の住宅では13ミリと20ミリが主に使われています。甲府市ではこれまで13ミリが多く使われておりましたが、快適な水使用環境を促進していただくために、20ミリを推奨していくことを考えております。

(委員)

20ミリの方が、水の出が良くなるのですか。例えば2階で出にくいのも、管を太くすれば2階の水道も勢いがよくなるのかそういうことあるのでしょうか。

(事務局)

水源が不足していた時代では 13 ミリを推奨していましたが、現在では水源確保や水道管の増強により十分な水量、水圧の確保ができるようになりました。

また、住宅の環境も充実し、台所、風呂、洗濯機、トイレ、食洗器の使用など蛇口の数も増加傾向にあるのに加えて、生活スタイルの変化から水機器を同時に使用する機会も多くなり、水圧不足を感じることもあるかと思えます。

20 ミリを選択していただきますと、水道を同時に使用しても水圧が落ちることなく、より快適に使用していただけますので、今回の料金改定では 20 ミリの基本料金を下げて、13 ミリと同額にすることで普及の促進を図ることにしたところで

(委員)

家の 2 階にトイレと瞬間湯沸かし器があるのですが、トイレを流したときに、湯沸かし器が使えないときがありましたので、理解ができました。

(会長)

ありがとうございました。せっかくですので、各委員の方に、特に今日の印象も含めて、例えば新しく加えられた項目とか、この辺が気になるとかで結構ですので、一言ずつ順番にお願いします。

(委員)

これから新しい経営戦略に向けて走り出していくというところで、水道料金の回収率の向上に向けたロードマップというのは具体的にどのようなことを考えているのか教えていただきたいと思えます。

(事務局)

経営指標としての料金回収率とは、水を製造販売する費用と料金収入を比較して利益がでているのかという指標になります。この値が 100%を切ると、赤字事業になってしまうため、目標を定めたロードマップを作成して、経営の安定化を図るようにと、国から作成要請がされているものとなります。

(委員)

やはり専門的な用語が多くありまして、例えば、3 ページ目の直結増圧式給水、一番下の鉛製給水管など、専門用語がたくさん入っているなっていう印象がありました。

水道事業も下水道の方も現状と課題が施策に合わせた形で並んでいるということですが、数が多く 1 列に並んでいるような印象があるので、読み手としますと、中規模なタイトルがついていると読みやすいかなというのが、印象としてありました。

6 ページ目の経営方針 2 のところの (2) 番、甲府市上下水道ストックマネジメント計画について教えていただければと思います。

(事務局)

上下水道のストックは、浄水場や処理場の施設、管路などの資産のことを指します。このような資産は、老朽化していきますので、適切な維持管理の下で予算の平準化などを図り、効率的な更新を行っていくために策定する計画がストックマネジメント計画となります。

(事務局)

直結増圧給水について説明しますと、3 階以上の建物では、受水槽を設置して給水する形式が多いのですが、受水槽の衛生管理が必要となります。管路の増強整備が進み、受水槽を介さずに直接管路から給水することが可能となりましたので、給水設備の改良を促進する事業を進めています。

鉛製給水管は、古くから加工がしやすい水道管の材料として使用されてきました。直接的な健康被害などの問題はありますが、水質基準が強化されたことなどから取り換える事業に取り組んでいます。

(委員)

各項目について 1 つ 1 つ説明していただくと非常によくわかるのですがけれども、経営環境の変化とは、どういう環境の変化が起きてきているのか、それに対してどう対応しているみたいな説明をしていただくとわかりやすいのかなという印象を持ちました。例えば広域連携もどういう要請があってそれがピンチなのかチャ

ンスなのとかかですね、それがどういった課題なのとかか、ご説明をいただければと思います。

(事務局)

経営環境の変化といいますと、人口減少に伴う水需要の減少が経営に大きく影響しています。過去に施設整備をしたものが、更新時期を迎えており、そういった中で、将来に向けてどうやって経営を安定的に引き継いでいくかということが大きな課題となっています。今回の経営戦略には、今後 50 年、100 年後の子や孫の世代まで引き継いでいくための 10 年間の計画として、考え方を整理してまとめていきたいと考えています。

(委員)

その技術的なところとかかですね、どういった指針があってそれがどういうところに活かせるのかとか、今までと違っているところ、そういうものが経営環境の変化かなと思っています。

(事務局)

広域連携につきまして、上下水道においては、基本的に市町村それぞれが経営をしています、人口減少や労働力不足などの影響が全国の上下水道事業の運営にも生じてきています。

これらの課題に対応していく方策として、国からも広域連携の推進が示されているところです。

(委員)

私がちょっと気になっているのは、8 月 7 日の大雨です。家の前の側溝の水があふれた、川があふれて学生が帰れないという話を消防団の方等から伺いました。

以前は、田んぼなどが吸収してくれたのが、コンクリート化が進み吸収できないため、豪雨時の浸水対策などの検討が必要かと感じています。

(事務局)

現在、法改正に伴う浸水想定区域を調査しており、雨水排除のボトルネックに

なっている場所等が分かるようになりますので、対策業務が進んでいくことになると思われます。

(委員)

小学校に雨水を一時ためるプールみたいのを計画しているような話を聞いたことがあるのですが、東京都などにある地下に雨水をためる施設の計画があるのか教えてください。

(事務局)

調整池というのですが、莫大な費用がかかりますので、考え方の主流としては流域治水という考え方が出てきています。これは、例えば、遊休農地みたいなどころを守っていこうとか、企業の駐車場を一段低くして水をためられるようにするとか、あらゆる関係者が協働して、流域全体で水災害対策を考えましょうという方向性で進められています。

(委員)

甲府盆地も昔は湖だったという話もありますし、武田信玄公があれだけの治水を行った山梨県ですから、甲府市、山梨県全体で治水対策を進めていただきたいと思います。

(委員)

水道については、お水がおいしくて、使いたいときに使えるって嬉しいなって、甲府市にお嫁に来てよかったなっていう思いでいました。

この骨子案については、専門用語や横文字が多くて難しく感じました。

例えばしなやかな水道ってどういうことを言うのかなって。用語の解説があれば、よかったなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。

やはり分かりにくいところも、たくさんあるのですが、特にその中身をこれから検討する中では、こういう見やすさ、わかりやすさが重要になってきます。

(事務局)

専門用語が多いので、分かりやすくするためにも用語解説の用語を加えていくことを考慮していきます。

(会長)

それでは皆さんからもいろいろご意見いただきました。

これで議事を終わらせていただきます。

以 上